

平成30年度 商業科教員継続研修 最終報告書

岡山県立津山商業高等学校

教諭 坂田 真奈美

1 研修の概要

現行の学習指導要領において、科目「ビジネス実務」の内容として取り上げられている珠算を生徒に指導する技術は、技術の習得までに時間がかかり、初めて利用しようとする者にとって効率的とは言えない。しかし計算道具として活用する術は、日本の伝統文化でもあり、法則に則って地道におこなっていけば必ず答えが出る道具としては、大切にしたい商業の技術であり、守っていかなければならない技術でもある。アナログではあるが、新たに学ぶ私にとって、着実に玉をはじくことで確かな答えが出ることに感動を覚えた。

新たな学習指導要領については、珠算を教える場面が少なくなっているが、自身の商業についての知識・技術が不足している現状から、ベテランの先生方に直接教えていただける機会として継続研修での取り組みを選択した。

珠算の魅力は、自分の力で小数の計算から、大きな桁の計算まで行うことができることだ。数字の概念として10進法を学ぶ上でも目で見て繰り上がり、繰り下がり、補数がわかる道具である。電卓は、数字を入力すれば確かな答えが得られ、入力さえ間違わなければ答えにたどり着くことができる。しかし、自分の力で解いたという実感が沸かない。表示された数字が、どのように計算した結果なのか、答えしかわからない。一玉と五玉を使うことで、繰り上がり繰り下がりを目で確認することができ、アナログの良さがあるように感じる。デジタルで答えがすぐに与えられる世界に生きている高校生に、アナログではあるが、自分の力で答えにたどり着く努力をすることは、必要なことであると感じる。

また商業科の教員として、いずれは商業科特有である珠算電卓部を顧問として持つことも考えられる。幼いころから珠算に親しんでいる生徒が数少ない状況で、授業や部活動として珠算に取り組む際には、自身が技術の習得を目指し、教えられる指導技術を身に付けることが最も必要であると感じた。そのうえで生徒の立場で指導教諭の授業展開を学び、生徒側として自身が学ぶことによって、指導するポイントをつかんでいけるのではないかという思いもある。

基本的には、私が生徒となって指導を受け、自主練習を積んでいくという形で、生徒の立場で私が躓くところを体感しながら学ぶことを目的とする。

そこで、「珠算・暗算の基礎からの授業方法」をテーマに私が検定合格するレベルまでの技術を身に付けることを目標に研修をしていくこととした。

2 年間計画と研修内容

- (1) 継続研修参加 (年 12 回)
- (2) 検定受験 (平成 31 年 2 月 10 日実施)
- (3) 研修計画

回	月 日	研修内容 (実際)	研修内容 (年度当初計画)
1	4月25日	加算・減算	加算・減算
2	5月18日	加算・減算	加算・減算
3	6月20日	乗算	乗算
4	7月11日	乗算	乗算
5	8月22日	校務のため欠席	自主練習
6	9月12日	中間発表会	中間発表会
7	10月24日	校務のため欠席	除算
8	11月21日	乗算 演算練習	除算
9	12月5日	除算 指導方法	暗算
10	12月19日	除算 演算練習	暗算
11	2月6日	総合演習	暗算
12	2月10日	検定受験	検定受験
13	3月4日	最終報告会	最終報告会

3 研修成果と課題

基本的な加算・減算については、テンポよく計算できるようになったが、乗算・除算に関しては、いまだ時間を要する。算盤の上での一玉と五玉の動かし方を、どの計算方法でも共通させることができることを経験することができた。しかし、身に付けるためには、相当の練習時間が必要となり、突き詰めて演算練習をすることができなかった。

生徒に指導する際には、統一した規則に則って玉を動かすことにより、確実に結果を得られることを学ばせたいと思う。また、技術として習得を目指すためには、簡単な道のりではなく、地道な努力とそれだけの集中力を身に付けさせる必要がある。最終結果として2月日に受験した珠算能力検定には合格することができなかったが、自主練習を積み重ね、6月の検定での合格を目指す。

学習教材

日本商工会議所主催 珠算能力検定試験 珠算プリント集
(株式会社朝日プリント社出版)